# 第３２回学校評議員会　会議録

平成２６年７月２２日（火）　14:00～15:45
弘前高校会議室
出席者　学校評議委員　４名
　　学　校　側　校長、教頭（司会）、事務長、教務主任
　　進路指導主任、生徒指導主任、教務部員（記録）

## １　校長挨拶

校長　：　１３０年をこえる歴史を持つ本校ですが、独りよがりにならないように、多くの人からご意見を伺いながら学校を経営していきたいと考えております。目指す学校像のキーワードは「一人一人」「努力」「連携」です。また経営の柱に持って行きたいのはキャリア教育です。

　弘前高校２２代小田桐孫一校長が「一隅を照らす人」になれと訓示しましたが、弘前高校も「一隅を照らす学校」になればと考えています。

## ２　校内一巡

校内一巡（ねぷた製作見学）

## ３　意見交換

校長　：　学校経営方針について説明いたします。「持って生まれたものを深くさぐって強く引き出す人」という「目指す人間像」は小田桐孫一校長先生が定められてから、ずっと受け継がれてきました。教育目標にある、「徳・智・体」は普通は「智・徳・体」の順です。知よりも徳を重視するところに意味があります。言うまでもなく、弘前高校の目標は文武ともに優れた生徒を作ることにあります。

　青森県教育委員会は現在県立高等学校教育改革の第４次計画を策定中ですが、中学校卒業予定者数は平成２５年３月の約１３０００人が、平成３５年３月には約１００００人となり、約３０００人、学級数にして約８０学級の減少が見込まれます。弘前高校も一定の学校規模を維持しながら、教育の質を維持し、どうやって様々な分野のリーダーとなる人材を育てていくのかを、今一度考える必要があります。

　「学校経営方針」は「教育目標」を具体化したものです。先ほども述べた目指す学校像のキーワード「一人一人」「努力」「連携」ですが、生徒一人一人が大事である、能力の差は小さいが努力の差は大きい、市民や同窓生から弘前高校が何を求められているかを考えて信頼される学校にする、を基本姿勢として学校経営をしていきたいと思っています。

　「自立した社会人となるために～総学と特活を核としたキャリア教育の推進」についてですが、確かに最初の大きなハードルは大学受験ですが、自己を見つめる力の育成、つながる力の育成、体験活動への参画を通して、生徒が将来の基盤を作るようにしていきたいと考えています。

教頭　：　昨年の評議員の皆様からの意見を元にして「平成２５年度学校評価結果報告書」を作成しました。現状と課題に関しては、単なる知識偏重ではなく、自ら考え、自ら解決に向け努力する生徒の育成を目指しています。しかし年々未熟な生徒が増えてきており、主体的な行動力の育成が急務であると考えています。評価項目に関しては、学力の向上は達成度Ａ、進路指導の充実は達成度Ｂ、生徒指導の充実は達成度Ａ、心身の健康保持・環境の整備は達成度Ｂでした。

　続きまして、教務部、生徒指導部、進路指導部から平成２６年度の重点努力目標と現在の取り組みについて報告いたします。

教務部　　：　平成２６年度教務部重点努力事項は、各学年・各分掌との連絡調整により、円滑な学校運営に努める。自立した社会人となるため、主体的な学習態度の育成と確かな学力の定着を図る。そのための効果的な指導方法や授業を目指す研修活動を進める。授業時間数の確保に努める。教育課程の研究を進め、改善点を検討する。成績処理システムの円滑な運用に努める。スムーズな選抜業務の運営に努める。学校評価を受けて、学校運営上の問題点を検討する、の７項目です。具体的にはねぷたをはじめとする行事が円滑に行われ教育的によい効果がでるように連絡調整を図りました。

今年は新学習指導要領が全学年とも実施された初年度です。弘前高校が目指す方向に合致した教育課程作成のために、問題点を探り検討・改善を進めていかなければならないと考えています。

最後に年度当初計画した年間行事は現在までのところ、予定通り順調に実施されています。

生徒指導部：　平成２６年度生徒指導部重点努力事項は、安全教育を徹底し、自他の生命と健康を守る指導に努める。時間厳守や挨拶、気品ある服装容儀などをはじめとした、基本的生活習慣の確立に努める。自治会活動や部活動を活性化し、弘高生としての連帯感と誇りを育むとともに、学習活動との調和を図る。市や地域、団体などが計画する事業活動やボランティア活動などの広報に努めるとともに、積極的な参加を促すです。

自治会活動は４月よりは活性化し良くなってきています。ただ７月１３日現在で自転車運転中の事故が７件発生しています。この件数は例年に比較して若干多い数字です。

今年度は高校総体での団体優勝は残念ながらありませんでした。しかし団体で３位までに入賞した部が６つあり、平成２４年度と２５年度の２つに比較してもよく頑張っていると思います。個人では空手道、水泳、馬術で優勝した生徒が出ました。水泳は先日の東北大会でも２位になりインターハイへの出場を決めました。文化部の全国大会出場は将棋部、囲碁部、写真部、放送局、文芸部でした。部活動の加入率は９５．８％でした。進学校としては、かなり高い加入率だと思われます。

進路指導部：　平成２６年度進路指導部重点努力目標は、個々の生徒が早期の目標設定と取り組みができるよう環境整備を行う。他分掌、学年、強化との連携を図り、効果的な進路指導を行う。進路情報の収集と提供を行う。進学推進事業を円滑に運営し、地域の拠点校として進路指導の充実を図る、の４つです。

平成２６年度入試では青森県から東京大学に合格した生徒は、弘前、青森、八戸から各１名ずつの計３名でした。難関に挑む生徒をもっと育てなければならないと考えています。

学習状況調査では携帯・スマートホンの使用状況と成績の相関関係を調査しました。成績下位者１４％が毎日２時間以上携帯端末を使用しているなど、使用状況と成績の強い相関関係がありました。

本校では志望者の最も多い大学は東北大学です。総合的な学習の時間を有効に使い、一人でも多くの生徒が進路実現できるようにしていかなければならないと考えています。志を育てる取り組みとして「医学ゼミナール」「東北大・東大オープンキャンパス」「大学出前講義」を実施していきます。オープンキャンパスへの参加人数は東北大２３０名、東大５０名と過去最大の希望者が集まりました。

今年度は新課程による大学入試の初年になります。数学と理科では学習内容の大きな変更があります。特に理科は過去問が通用しない状況があり、情報収集のため１学期中に６名の教員が予備校研修に参加しています。また地域の拠点校として進路指導の充実を図る目的から、近隣の学校にも参加を募り、弘前大学医学部医学科入試対策委員長を招いて説明会を行いました。市内４校から５５名の参加者がありました。

教頭　　：　各分掌からの説明が終わりましたので、これから質疑応答に入ります。

評議員Ａ氏：　目指す人間像についてお聞きします。人間は何も持って生まれません。ダイヤモンドは最初からダイヤモンドであって、ダイヤモンドに変化するわけではないと思います。

研磨工場は必要です。ダイヤモンドは研磨しなければ光り輝くようにはなりません。「持って生まれたものを深くさぐって強く引き出す人」というのは難しい概念であるので、誤解される恐れもあります。生徒には誤解されないように、折に触れて説明して下さい。

校長　　：　機会あるたびに生徒に説明し、生徒に正しく理解してもらおうと思っています。

評議員Ａ氏：　今年から新学習指導要領が全学年完全実施されるそうですが、総合的な学習の時間を弘前高校ではどのように実施していますか。

教務部　　：　総合的な学習では課題設定、情報収集、分析整理、まとめ発表のサイクルが大事です。ねぷた作成を通した郷土文化への理解、人間としてのあり方や生き方などについて３年間を見通して計画し実行しています。

評議員Ａ氏：　ゆとり教育は自由放任へと、はき違えられた反省から新しい総合的な学習は考えられました。ＯＥＣＤの国別の学習達成度調査の結果でも相変わらず厳しい結果が出ていますので、学習指導要領を守り、きちんとした教育を弘前高校は行ってほしいと思います。

校長　　：　学校経営方針でも述べた通り、私はキャリア教育が重要であると考えています。教務部を中心として、進路指導部にもかかわってもらい、より良いカリキュラムを作っていかなければならないと考えています。

評議員Ｃ氏：　部活動に加入している生徒が９０％以上いるとのことでしたが、リーダーとなる人材を育てるならば、自信や主体性を部活動を通じて育成していかなければなりません。部員が多い部では目に付きにくいですが、孤立を深める生徒が出てきます。ただ勉強ができるだけではなく、孤立する部員にも目配りや気配りのできる、リーダーの資質を持った生徒を育てていってほしいと思います。

評議員Ａ氏：　生活指導と学習指導は別であってはいけません。遅刻が多いなど落ち着かない雰囲気の学校では、必ず全体の成績も低下します。進学校でも生徒指導には十分注意して力を注いでいく必要があると思います。

校長　　：　生徒が勉強するには良い学習環境が必要です。生活指導が重要であるのは言うまでもありません。現在、弘前高校は遅刻がほとんどありません。またいろいろと悩みを抱えている生徒もいるので学校カウンセラーが月に１回来校し、必要に応じて生徒、保護者、養護教諭と面談しています。

評議員Ａ氏：　進学校にとって進学率は非常に重要です。難関と言われる大学にも生徒を合格させる必要があると思います。そのためには受験の事を第一に考えて、受験に関係のない科目は負担にならないように授業するなどの工夫が必要だと思います。

教頭　　：　時間もだいぶ過ぎましたので、他の方からも一言、ご意見を頂きたいと思います。

評議員Ｂ氏：　高校生は年の離れた大人の話よりも、年の近い先輩の話の方をよく聞きます。進路指導部の説明にあった、大学生のＮＰＯのような事業を実施するのは効果的だと思われます。話は変わりますが、先生によって考査の平均点がクラスごとに大きく違うというような話をよく聞きます。何人かで授業をするのであれば、担当者で十分に打ち合わせして授業を行ってほしいと思います。

教頭　　：　誰が授業を担当しても、入念に打合せをしたとしても、クラスの平均点が異なる場合はあります。生徒にも不満が出るので、もしそのような事がある場合は教科に改善するように指示しています。

評議員Ｃ氏：　ねぷたのルートが昨年変更になっていろいろと話題になりましたが、今年は元に戻って良かったと思います。大学病院に入院している子供も大人も、病院の近くを通る弘前高校のねぷたを楽しみにしています。やはり社会情勢が変わっても伝統は大事にしていかなければならないと思います。

校長　　：　地域に根ざした伝統は大事にしていかなければなりません。安全面を考えると学校出発、学校到着のルートに戻すことができたのは良かったと思います。行事を行ったあとは必ず改善点がないかをチェックし、反省していかなければなりません。警察にもいろいろと理解を求めていく必要があります。楽しみにしている人がたくさんいる現状を説明して、警察にもいろいろとアドバイスも頂きました。これからも安全第一で、楽しいねぷた運行を心がけていきます。

評議員Ｄ氏：　私は３月まで市内の中学校に勤務していました。外から弘前高校を見ていて気になったことは、せっかく入学しても留年や退学をする生徒がいることでした。また学校の課題をこなすために家庭教師や塾に助けを求める生徒もいると聞きました。勉強のできる生徒だけではなく、そうではない生徒にも手をさしのべて頂きたいと思います。ただ先ほどの生徒指導部の説明によると、不適応の生徒は減少しているそうなので少し安心しました。

　進路指導部からの、大学のオープンキャンパスは参加した生徒の意識を変えるという調査は、その通りだと思います。東大を始めとする難関大学に挑戦させるには、意識付けは早いほうがいいと思います。

教頭　　：　東大や東北大だけではなく、他の大学にもどんどんオープンキャンパスに行った方がいいと思います。憧れは力になります。

校長　　：　本校の進路志望調査によると東北大約８０名、弘前大約８０名となっています。本校は東北大への合格者をどのように増やしていくかが課題だと思います。そのためには先生方の研修や教科会議をしっかりとやって頂くことが肝要だと思っています。また伝統ある弘高ねぷたも決してなくしてはなりません。ねぷたを運行する弘高生の姿も是非ご覧下さい。指摘のありました目指す人間像についても、誤解のないようにしっかりと説明していくつもりです。

終了　　１５：４５